

カウンセリングに来られるお母さんの後ろにお父さんの影が見える

植松紀子先生(こどもの城・臨床心理士)にカウンセリングを通じて見えてくる今時の親子像・問題点をお話いただきました。



植松紀子先生

「赤ちゃんサロン」から見えること

こどもの城「赤ちゃんサロン」は、親同士の仲間づくりを応援しようと、14年前に開設しました。申込みもなく、誰でも自由に参加できます。対象は、3か月から1歳半までの子どもと親。

「赤ちゃんサロン」のチーフをしている植松先生は、開設時と比べ、最近に変化が出てきているといいます。

- ①「赤ちゃんサロン」では、赤ちゃんは裸になり、赤ちゃんの体をマッサージすることで親子のスキンシップを図っています。ところが、ほとんどマッサージをしない若いお母さんが増えています。ベビーオイルを使わないとマッサージをしてはいけないと思いついでいるようです。
- ②以前は、継続参加する人が多かったけれど、今は、毎回、新人が半数を占めるようになってきています。「こどもの城の赤ちゃんサロンに参加する」ことが、「ファッション」のようにになっているのかもしれませんが。サロンには、医師・看護師・臨床心理士など専門家がついていて、相談にのれるので、継続して参加していただきたいです。
- ③アンケートを見ると、今までは、「お母さん同士、友だちを作ること」が目的の第一にあげられていましたが、昨年は、「赤ちゃん同士を遊ばせること」を第一の目的にする人が増えています。赤ちゃん同士、刺激を受けあうことはあっても、遊ぶというところまでは発展しないですね。携帯や、インターネットの普及で、友だちとおしゃべりは、十分にできていると思いついでいるのではないのでしょうか。そして、他のお母さんの話は聞かない。以前は、ひとりが話し始めるとすぐに輪ができたのに、なかなか輪に入れないお母さんが増えています。

「赤ちゃんサロンに来られるお母さんは、第一子の場合が多いのですが、平均年齢を出してみると、32歳です。高いでしょう！」

「お父さんの参加は少ないです。それでも前回は、3組参加しました。全然、子育てに感心のないお父さんの場合、お母さんも赤ちゃんも元気がないことが多いです。そんなお母さんには、『毎回来てくださいね』と声をかけるようにしています」



「赤ちゃんサロン」

カウンセリングから見える父親の役割

日々のカウンセリングで、「全体的に幼くなっている親像が見えてきて心配」という植松先生。

「子どもが、情緒障害や心身症になってしまう原因は、その時に始まったことではなく、実は、ずーと引き続けているはずですが、10歳くらいまでに発症してくれると、家族の構造を変えることができますし、子どもも変わります。それを過ぎると時間だけかかって、難しくなりますね」「グループカウンセリングの時に、注意して見ていて、改善が見られない場合は、来院してもらいます。ほとんどお母さんが来院しますが、その背後に必ずお父さんの影がチラチラ見えます。『あれ、このお父さんおかしいぞ』と思ったら、お父さんにも来てもらいます。一番変わりにくい父親が変わると、家族がガラッと変わります」



心理相談

「子どもが、2〜3歳くらいの時が、一番お父さんに協力してほしい時期です。でも、赤ちゃんの時に絡んでいないお父さんは、まったく手を出しません。子どもの第一自立期は、すごくエネルギーを使います。母親の大変さを理解してあげてほしいですね。女性の32〜33歳は、ホルモンのバランスが崩れる時期です。お母さんは、どうしたらよいかかわらず、お父さんに相談する。その時に『うるさい』などと突き放されてしまったら、母子

ともに煮詰まってしまう、ついつい手が出てしまう。虐待や離婚が多くなる時期です」

「お父さんも、会社では重要ポストを任される年齢ですので、仕事が忙しいのは仕方ないとしても、だらだら仕事しない。腹をくくって、やる時はやる。それはお母さんも同じです」

「ルールがある家庭は、それぞれがクリヤーになって、子どももやりやすいと思います。定期的に家族会議がもたれると理想的です」

あなたにとって「幸せの3つの条件」とは何ですか？

「アルフレッド・アドラー(精神科医師)は、『幸せの3つの条件』として、①自分のあるがままを好きになりなさい。②人を信頼する自分でありなさい。③社会に役に立つ人間だということを認識しなさい。』といっています。

わたしは、アドラー心理学を学び、仕事の成果につながっていますので、そのとおりに思っているのですが、今の若い人たちやお母さんたちは、『自分は社会に役に立っていない人間だ』と思っている。特に、仕事に就いていない人が多いです。だから、子どもに期待し、小さいときから塾などに通わせる。『有名校に入れることが、わたしの自己実現です』と言ったお母さんもいました。『子どもを育てていること自体、十分に社会に役立っているのよ』といつもいっています。早期教育を受けている子どもたちの将来が、とっても心配です！」